

これでいいのか超高層乱立

「都市計画を問う」

来月3日に中原区でシンポ

で進む都市計画、まちづくりの根本を問う」といい、参加を呼び掛けている。

市は中原区小杉町二の地区計画で規制を大幅に緩和。高さ二十層規制の「第一種住居地域」が三分の二を占める場所で、高さ約百八十層の高層ビル建築が可能になった。

高層ビルが林立する川崎市中原区の武蔵小杉駅に近い市総合自治会館で八月三日、シンポジウム「これでいいのか超高層乱立のまちづくり」が開かれる。主催者側は「住民不在

住民には業者にお墨付きを与えた市への不満が強い。地区計画に寄せられた四万通近くの市民意見の99%を反対意見が占めたが、「それでも当初の計画素案がそのまま決まっ

た」として、パネリストの一人で、まちづくり・環境運動川崎市民連絡会の小磯盟四郎事務局長は「住民不在だ」と訴える。

「全国」で空き家が八百万戸の時代。日本全体で急速に人口が減る中、何十年か先、なかなか解決の難しいマンション建て替え問題などで最もひどいまちになる」と小磯さん。シンポジウムでこの見通しを一人でも多くの人

に届けたいという。

午後六時半スタート。パネリストはほかに、景観と住環境を考える全国ネットワーク代表の日置雅晴・早稲田大教授、一子玉川の環境を守る会（東京都世田谷区）の飯岡三和子さんが務める。

参加には、事前申し込みが必要。問い合わせは、小杉・丸子まちづくりの会＝電（722）8012＝へ。